

町特産ブランドに3品が仲間入り!



5月16日(火)にパティスリー暦(船附)のひょうたんブッセ、きび羊羹本家(鷺巣)の養老豆、有限会社養老魚新(飯田)の茄子の酒粕漬の3商品が新たに養老町特産ブランドとして認証されました。このうち、ひょうたんブッセは新商品共創ワークショップから生まれたもので、養老町を代表するお土産となることが期待されています。また、養老豆は養老らしいひょうたん型の容器に入った大正時代から作られている懐かしい味わいの商品です。茄子の酒粕漬は玉泉堂酒造株式会社の酒粕を使用して作られており、おかずや酒の肴としてはもちろんのこと、パスタやピザにしてもおいしく食べられます。

2015年度から認証が始まった特産ブランドは今回で29品となりました。

地域の社会福祉活動へ尽力



平成元年12月1日以来、民生・児童委員として、令和元年11月30日の任期満了までの30年間にわたり民生児童委員協議会の推進、地域福祉、高齢者福祉などの向上発展に積極的に尽力した功績が認められ、瑞宝単光章を受章した椿井里子さん(石畑)が、その報告のため5月18日(木)に川地憲元町長を訪問しました。

椿井さんは「叙勲を受章したことを大変光栄に思います。地域やまちのためになればと思い、民生委員や社会福祉協議会評議員として福祉事業や地域活動に参加してきました。コロナの影響で地域活動も少し停滞してしまっていますが、これから活発になっていくことを願っています」と社会福祉への思いを話しました。

人道・博愛の精神を胸に



6月1日(木)に、町中央公民館において町赤十字奉仕団総会が開催されました。同奉仕団は、昭和58年に設立され、災害時の支援活動や高齢者への友愛訪問などを継続的に実施しており、今年で設立40周年の節目を迎えます。

味田絹代委員長はあいさつの中で「新型コロナウイルス感染症の影響を受け、縮小された活動もありましたが、今後とも町民の豊かな生活を支えるために尽力していきたいです。人道・博愛の精神のもとに団員が一丸となって日頃から活動に取り組んでいきましょう」と呼びかけました。

養老飯で笑顔あふれるデイケアに



5月18日(木)に、デイケア施設「船戸クリニック 天音の里」でご当地グルメである「養老飯」が利用者に振る舞われました。「養老飯」は、たれで味付けした焼き肉、フライドエッグ、漬け物をご飯に乗せ、ひょうたんの形を取り入れることを要件としており、家庭でも作れるものです。要件を満たせば、様々なアレンジを加えることも可能です。

松久宗丙施設長は「町広報や新聞などで養老飯の存在を知り、お店に行くことができない利用者さんにも食べてもらい、地域と一緒に盛り上げていきたいという思いから企画しました。高齢でも食べやすいようにアレンジし、おいしいと言ってもらえたのでよかったです」と笑顔で話してくれました。